

仕手株投資の成否は、出来高分析で決まる。



他の指標が見せる「ノイズ」の先にある、唯一の「真実」を読み解く方法。

なぜ、最重要指標が「出来高」だと断言できるのか？

実践からの結論

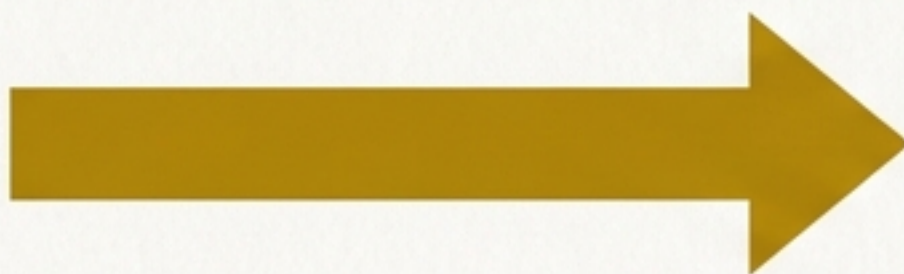
数多ある指標の中から「出来高」を最重要指標として取引を続けた結果、安定した利益が続いている。これは経験則に基づく揺るぎない結論です。

理論的な裏付け

出来高がなぜ機能するのは、投資家心理と市場の仕組みから理論的に説明できる。感覚論ではなく、再現性のある技術です。

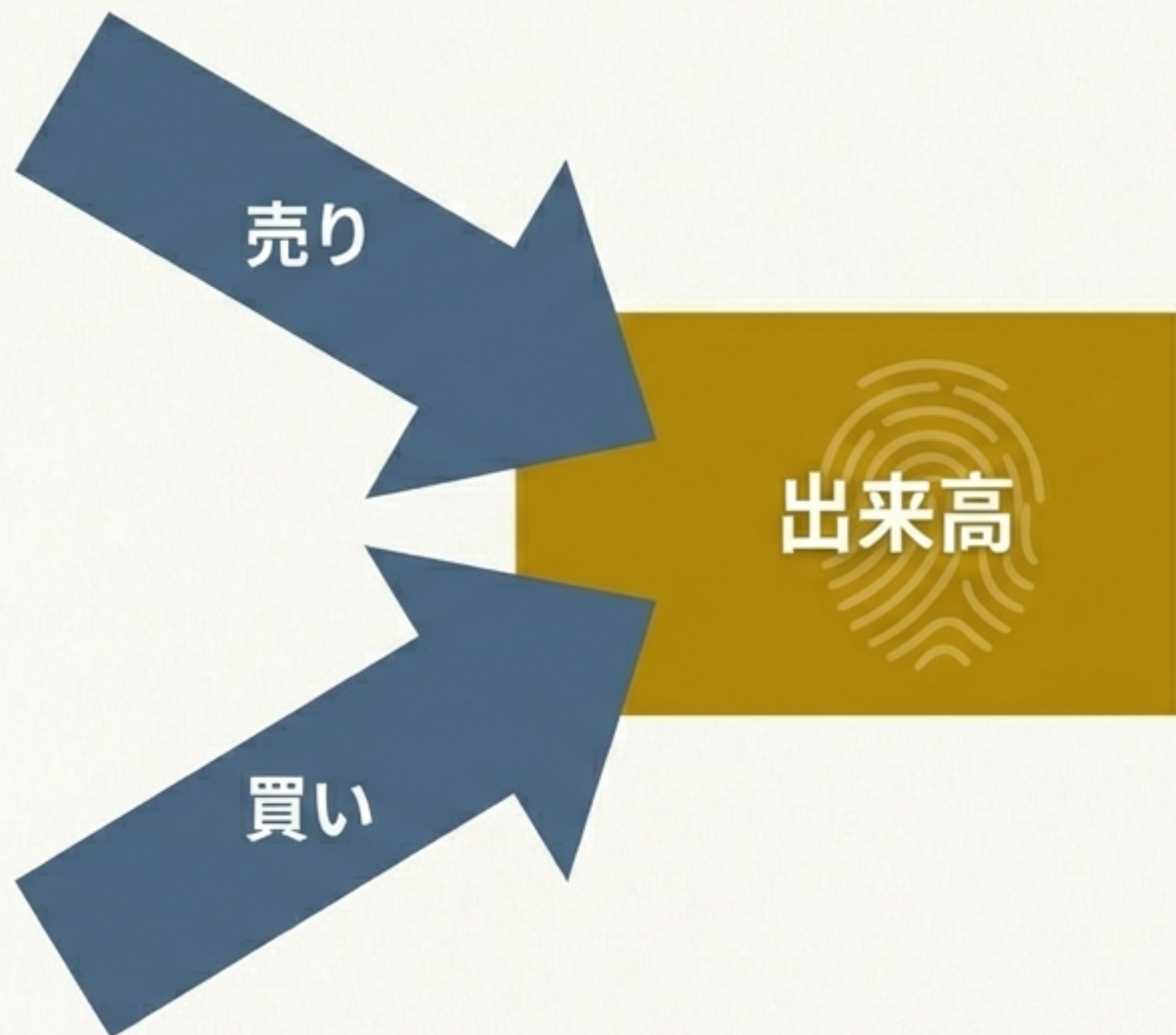


出来高分析



安定的利益

出来高とは何か？ — 市場心理の、隠しきれない「足跡」である。



取引の成立:

出来高「株価300円で100株」とは、「300円で100株買いたい投資家」と「300円で100株売りたい投資家」の意思が合致し、取引が成立（約定）した証です。

心理の表れ:

つまり、出来高は買い手と売り手のエネルギーがぶつかり合った結果。それは投資家心理そのものです。

唯一の真実:

そして最も重要なのは、この事実は誰にも隠すことができないということです。

出来高分析がもたらす最大の価値： 「真実」と「騙し」の見極め。

仕手株市場は「騙し上げ」で満ちている。株価の動きだけを信じると、高値掴みに終わる。

- ・「騙し上げ」の多くは、出来高が続かない。動きが一時的で、実態が伴っていないからです。
- ・出来高は、その株価の動きが本物か、あるいは単なる見せかけかを知るためのリトマス試験紙の役割を果たします。

騙し



出来高を伴わない上昇

真実



出来高を伴う本物の上昇

仕手筋が描く物語の三幕構成。

仕手株のサイクルは、大きく3つの段階で構成される。

今、自分の保有銘柄がどの幕にいるのかを把握することが、次の展開を読む鍵となる。



第一幕：初動

静かな市場に突如現れる買い。出来高が急増し、株価が上昇を始める段階。仕手筋による初期の買い集めが始まる。



第二幕：もみ合い

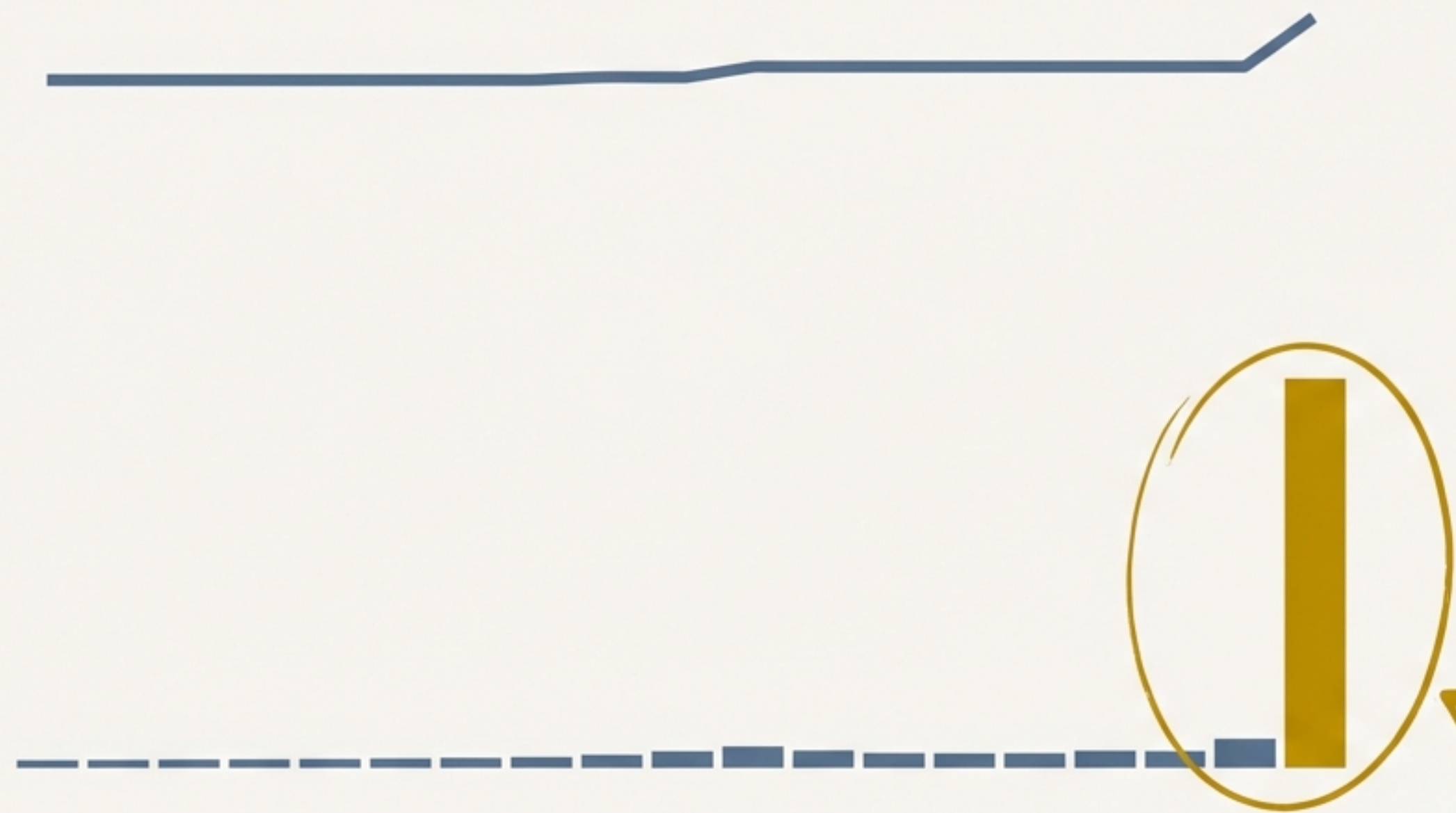
株価が一定の範囲で上下し、買いと売りの圧力が拮抗する。参加者の不安と期待が交錯する調整局面。



第三幕：売抜け

一般投資家の熱狂が頂点に達し、株価が急騰。仕手筋が保有株を売却し、株価が急落する最終局面。

第一幕：「初動」 — 物語の始まりを告げる狼煙。



これまで静かだった銘柄に、突如として出来高が急増する段階。これは、仕手筋（スマートマネー）が市場の関心を引きつけ、最初のポジションを築き始めたサインです。

この段階での出来高は、その後の大きな動きの「予告編」となる。見逃してはならない。

予告編

第二幕：「もみ合い」 — 主役が舞台裏で仕込む、緊張の期間。



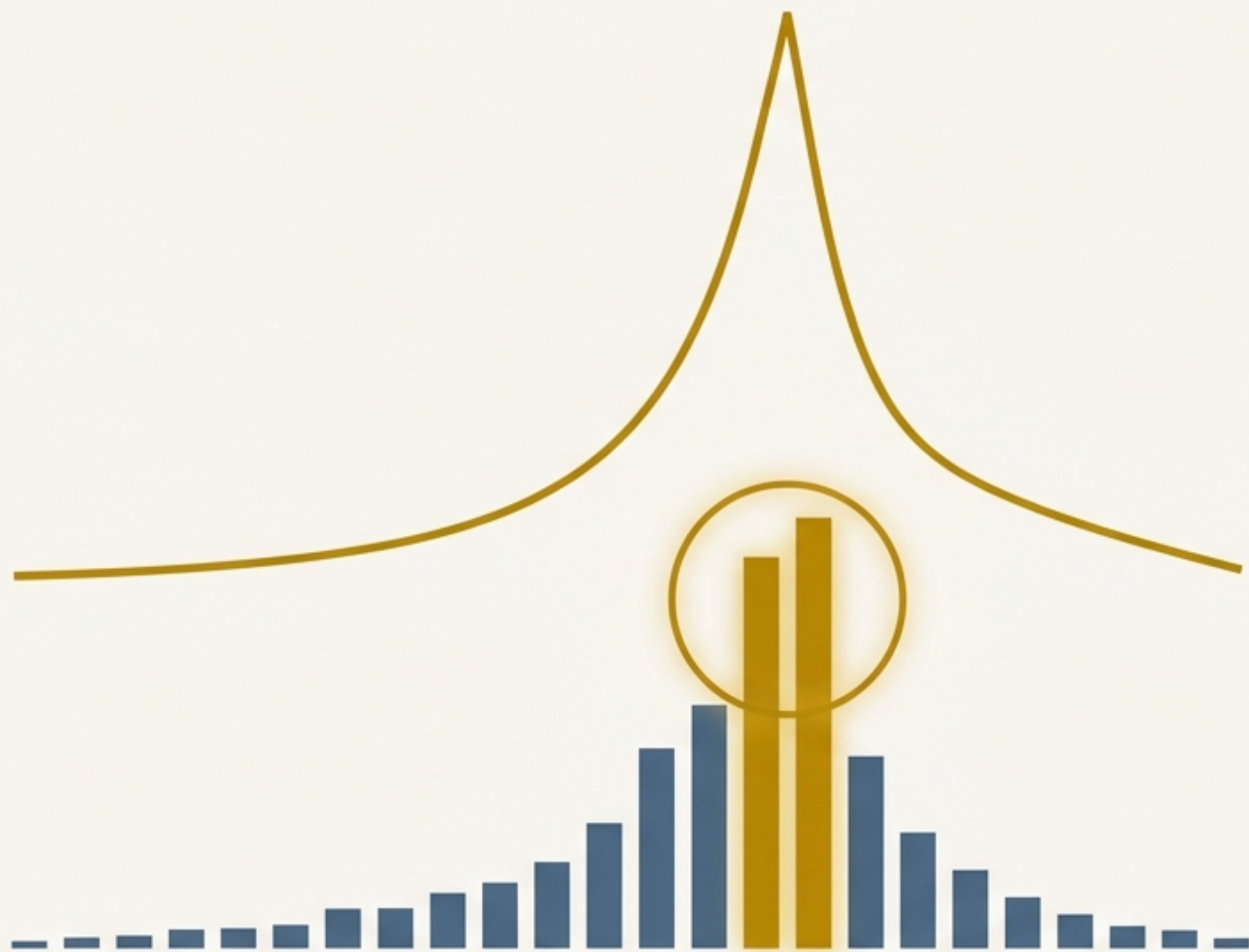
株価が一定のレンジで上下し、方向感が見えにくい段階。この静けさの裏で、仕手筋は本格的な上昇に備えて株を集め（株集め）、あるいは不要な追随者を振り落とている（振るい落とし）。



重要なポイント：

出来高は増減を繰り返すが、完全に消えることはない。この段階の出来高の質を分析することが、仕手筋の意図図を読む鍵となる。

第三幕：「売抜け」— クライマックスと、祭りの終わり。



Description:

株価が急騰し、メディアやSNSも注目し始める最も華やかな段階。しかし、これは仕手筋が利益を確定するために、集めた株を一般投資家に売り抜けている最終局面である。

Key Takeaway:

爆発的な出来高を伴う急騰は、多くの場合、終焉のサイン。熱狂に惑わされず、出口を意識しなければならない。

すべての基本原則

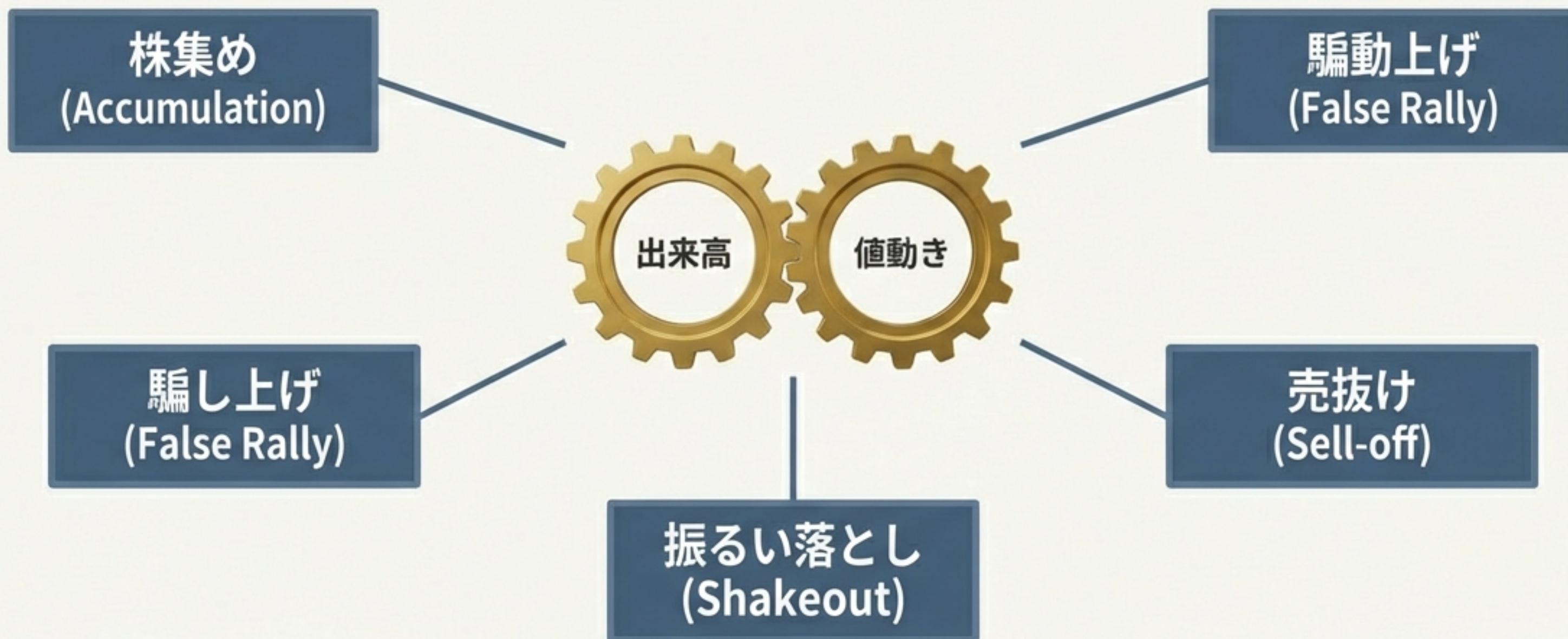


「出来高」と「動き」を、常にセットで考える。

片方だけでは意味がない。出来高は、値動きの背後にある「真実」を明らかにする。
この原則さえ守れば、仕手筋のあらゆる戦術を見抜くことができる。

仕手筋の「手の内」は、すべて出来高に現れる。

仕手筋は手の内を読されないよう、複雑な値動きを仕掛けてくる。
しかし、彼らの行動はすべて出来高という形で市場に記録される。



唯一の例外、そして最大の過ち。

The Cardinal Sin: **仕手筋（投資ファンド）が、そもそも参加していない銘柄を取引すること。**

The Consequence

- * これは「観客のいない劇場」で芝居をするのと同じ。大きな上昇は期待できず、下落リスクの方が大きい。
- * 結果として、確実な時間の無駄であり、資金を危険に晒す行為です。

Our Rule: **少しでも仕手筋の存在が疑わしい銘柄は、取引しない。**



長期的に勝ち続けるための思考法。

利益を出すことよりも、
損失を出さないことを重視する。

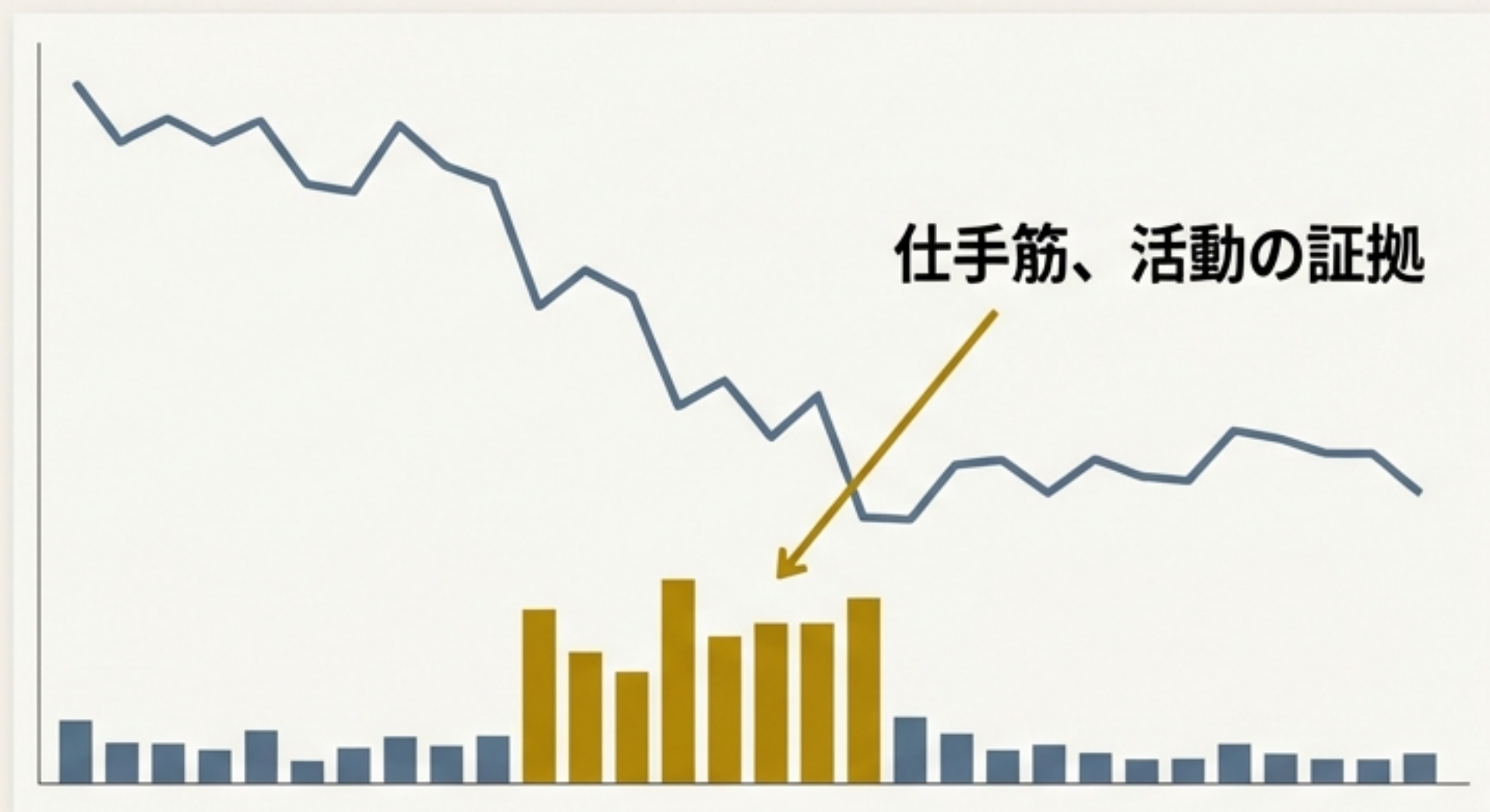


「悔しい思いはあるものの、割り切って忘れるのがベストです。」

不安な時こそ、出来高に答えを求めよ。

保有銘柄が下落し続けている。

「この先、本当に仕手筋による上昇は来るのか？」と不安になる。



- 仕手筋が何もする気がなければ、出来高はずっと少ないままです。
- 下落局面でも出来高が存在するということは、彼らがまだゲームを降りていない証拠。
「上昇させる気があるからこそ、出来高がある」のです。

出来高は、仕手筋の行動の「裏付け」。それを理解すれば、不安は自信に変わる。

出来高を羅針盤に、市場を航海する。



出来高は、仕手株という荒波を乗りこなすための最も信頼できるツールです。
それは仕手筋の意図を映し出し、我々に進むべき道と、退くべき時を示してくれます。

仕手株投資家としてのスキルアップは、ここで終わりません。
当サイトでは、日々の株価動向の分析を通じ、この「出来高分析」を実践レベルで共有しています。
この出会いをきっかけに、さらなる高みを目指してください。

さらに詳しくは [\[仕手株.コム\]](#) へ